

委員会の意見整理例(案) <H18. 5. 15版>

カテゴリー	地域区分	意見整理例(案)	意見整理例(案)に含めている意見・意味の例	全文案の 左上の ページ番号	意見整理(例)に関連するカテゴリー					
					特徴・ 歴史	空間 利用	環境	利水	治水	教育・ 住民活動
		注)青字は第10回流域委員会での意見により、追加・修正した箇所である。								
特徴・歴史	大和川全川	歴史的な特徴が感じられる川づくりのあり方	①歴史の事実を確認し、河川整備計画の中で歴史の位置付けを議論すべきである。 ②歴史の問題はできるだけ最新の研究成果に基づいて、常に見直していく努力が必要である。 ③歴史的資料の蓄積を図る。	(1)		○	○	○	○	○
		箱物でなく現地で体験できるサイトミュージアム構想の提案	①現地でパネルや写真を見て環境や文化が学べるという構想である。 ②地域の文化や物産を愛する気持ちが川を愛することにつながる。	(1)		○	○	-	-	-
		大和川流域における産業・資産の認識	①付け替え工事により、新田が開発された。 ②大和川流域の資産分布の密度が非常に高くなっている。	(1)		-	-	○	○	-
	大阪府域	付け替え300周年を契機とした大和川への認識の高まり	①付け替え300周年記念行事の開催により大和川に関する市民の認識が高まった。 ②付け替え300周年の成果を生かし、関係機関と連携し、研究の発展・自然環境保全・遊べる川への復活を促進する。	(1)		-	-	-	-	○
空間利用	大和川全川	それぞれの場所の表情を活かした河川景観のあり方(空間のあり方も含む)	①河川利用と自然環境との折り合い等の観点から、都市空間における川のあり方を考える。 ②河口部のスケール、合流部分、狭窄部分、奈良県域の景観など、それぞれ地域にあった評価の指標を見つける。 ③ヨシの景観上の位置付けはしっかりしている。	(2)	○		○	○	○	○
		河川を舞台とした地域の行事との関わりのあるあり方	①御渡りが継続的に実施されれば、川をきれいにしようとする人の意識が働く。 ②祭りの観点だけでなく川の管理の観点からも浸透は非常に大切な事業である。	(2)	○		○	-	○	○
		川に親しむ観点から考えた植生のあり方	①「川に親しむ」(ツクシやタンポポ摘みも含む)という観点では河川本来の植生を残すことが良いのではないか。 ②治水、管理上の考えから芝生が張られている。 ③河川内に残っている樹木には釣り人のための木陰や癒しの部分もあるので、その樹木のあり方を考える。 ④管理責任も念頭に入れた地域住民の手による花草の育植(花壇等の設置)のあり方を考える。	(2)	-		○	-	○	○
環境	大和川全川	河川本来の環境を目指した川づくりの考え方	①本来の河川形態を考慮した川づくりを考える。 ②水辺から陸域のヨシ群落やセイタカヨシ群落などの保全を目指す。 ③刈り取りと野焼きにより、生物の生息環境に変化をもたらす。 ④正常流量のあり方について考える。	(3)	-	○		-	○	○
		生物相の多様性が失われていない川	①水域と陸域における生物の生息・環境を確保する。 ②生物ネットワークの構築を目指す。 ③カワウの生息について考える。	(3)	○	○		-	-	-
		動植物が河川環境に与える課題	①カワウの糞による水質汚濁が問題である。 ②底生動物と水質の関係もある。	(4)	-	○		○	-	-
		動植物に関する外来種の課題	①河川改修が進めば外来種がすみやすくなる。 ②外来種は魚などの動物だけでなく、アレチウリなどの植物についても考えていく必要がある。	(4)	-	○		-	-	○
		横断工作物による水質と生物の生息環境の変化	①横断工作物について、水質や生物連続性の観点から配慮する。	(4)	-	-		○	○	-
		洪水等の攪乱による生物の生息環境の変化	①「河床変動」と「川のハビタットの条件」がどのようにリンクするかが非常に大事なテーマである。	(4)	-	-		○	○	-
		水質のあり方	①支川を含めて、水質を適切に保つ。 ②糞便性大腸菌群の起源を明らかにする。 ③汚濁負荷発生源(点源、面源)の現状を把握する。 ④下水道の接続率の課題がある。	(5)	-	○		-	○	○
	流域	流域と河川との接続に関する課題	①水際は川と水田の水のやりとり等の課題がある。 ②川と水田を往き来する魚がいる。	(5)	-	-		○	-	-
生物系データベースの構築		①現存生物のデータベースを構築し、森林保全やサイトミュージアムで活用する。	(5)	○	-		-	-	-	

委員会の意見整理例(案) <H18. 5. 15版>

カテゴリー	地域区分	意見整理例(案)	意見整理例(案)に含めている意見・意味の例	全文案の 左上の ページ番号	意見整理(例)に関連するカテゴリー					
					特徴・ 歴史	空間 利用	環境	利水	治水	教育・ 住民活動
利水	大和川全川	将来の利水を考えるうえでの現状把握	①水利権の現状を把握する。 ②水量と水質の現状を把握する。 ③水の利用量の変化状況、及び濁水流量の変化要因を把握する。 ④水・物質循環を空間的・時間的に表現するツールを作る。	(6)	-	-	○		-	-
		井堰の効率化	①川底を掘削すること、利水の両方を考えて計画を進めていく必要がある。 ②地域で相談をして、将来の計画として持っておかなければならない。	(7)	-	-	-		○	-
	流域	溜池の機能の維持	①溜池は洪水時の保水能力の点で重要である。 ②溜池の埋め立て状況を把握する。	(7)	○	-	-		○	-
治水	大和川全川	大和川の特徴を考慮した治水計画	①集中豪雨を考慮した治水計画を考える。 ②過去の浸水被害を鑑みた治水計画を考える。 ③河道の横断計画のあり方を考える。 ④流下能力の確保を図る。 ⑤堤防の強化についての具体的な検討を行う。	(8)、(9)	-	○	○	○		○
		流域における流出特性の変化	①都市化の進展とともに、流出形態が変化した。	(10)	-	-	-	-		-
		土砂動態・河床変動の把握	①流域内での土砂生産量を把握する。 ②河床変動状況を把握する。 ③水系一環した土砂管理のあり方を考える。	(10)	○	-	○	-		-
		リスクマネジメントのあり方	①ソフト対策とハード対策の組み合わせが大事である。 ②緊急河川敷道路の整備について考える。	(11)	-	○	○	○		○
	流域	森林の状態の把握	①山は間伐等の手入れをすることによって、初めて森林としての機能が発揮される。	(11)	-	-	-	-		-
		歴史的な土地利用形態が川の安全度に関わっているという認識が必要	①川が条里制の形状に沿って曲がっている場合は、治水上の弱点となる。 ②洪水を遊水させる請堤は非常に重要である。	(11)	○	-	-	○		-
	大阪府域	まちづくりとスーパー堤防の事業の推進	①スーパー堤防の事業区域は、河川延長ではなくて面積で考えるべきである。 ②まちづくりの事業が起こらないところでのスーパー堤防事業をどうやって推進していくかを考えるべきである。 ③スーパー堤防のための土砂供給源はコストや環境に配慮する。	(11)	-	-	-	-		-
	亀の瀬周辺	奈良盆地の諸河川が集中して流入する直下に亀の瀬地すべりがあることが治水上の一番のウィークポイント	①亀の瀬狭窄部の対策、並びに上下流への影響は技術的に検討する必要がある。	(12)	-	-	-	-		-
	奈良県域	総合治水対策の見直し	①社会情勢、山林保水能力、溜池の貯水量等の変化により、総合治水対策の見直しが必要である。 ②奈良県側と大阪府側では、治水上、川の性格が違い、治水の方法も形態が変わる。	(13)	-	-	-	○		-
教育・住民活動	大和川全川	泳げて遊べる川を目指す	①昔は泳げるぐらいきれいだった。 ②「川に近づくな」ではなく、「川の危ないところ」を知ってもらい、子供自ら自分の身を守ることが大事である。 ③大和川をめぐる種々の住民活動が始まっている。	(14)	○	○	○	○	○	
		本来川がもつ川の機能を学べる場	①「大和川学習館」、「大和川環境館」、「大和川流域館」的なものを目指す。 ②川と遊ぶのは人間の本能であり、川と遊ぶ、付き合う方法は何でも良いのではないかと。	(14)	○	○	○	○	○	
		持続性を視野に入れた学校教育や社会教育との連携のあり方	①大和川を学習する教材を充実していく。 ②地域と結びついた学校教育を重視した空間利用、環境問題を考える。 ③住民参加型の川づくりを考える。 ④「刈り取り」など住民の輪を広げるような広域的な取り組みを行うことが、生態系保全と治水につながる。 ⑤行政・地域住民活動・学識者等との連携したネットワークが必要である。 ⑥NPO等のネットワークを持続するための支援のあり方を考える。	(15)	○	○	○	○	○	
		人々の認識の変化	①「流れは未来に続く」という合い言葉で大和川クリーンキャンペーンが開催された。 ②「子供が変われば親が変わり、親が変われば地域が変わる」という合い言葉で絵と作文、写真、ポスター等の募集を行っている。	(15)	○	○	○	○	○	